

市民モニタリングを学ぼう・はじめよう『生きもの調査からはじめる、身近な森の生物多様性(1)』

生きもの「調査」をすること

鎌田 磨人

徳島大学大学院ソシオテクノサイエンス研究部 教授(生態系管理工学研究室)

どんな生きものがどこにいるのかを知ることが、調査の始まり。広域的な分布調査は、自分が関わっている地域の特徴を浮かびあがらせる。地域内での分布調査は、守るべき場所や優先順位を具体的に考えるうえで必要になる。そして、保全・再生のための方法を具体的に考えるためには、対象とする生物の生息・生育に必要な環境条件を明らかにしなければならない。具体的な計画には、情報を地図に示すこと、そしてゾーニングという考え方も重要だ。

上記の内容を明らかにするためには、それぞれに異なった調査方法、調査設計が必要になる。今日の講座では、いくつかの具体例を参考にしながら、「調査をすること」、「調査の結果を活かすこと」について考える。

1. 「調査」すること

2. そこにいる生物の種類を調べる

- ✓ 沖縄県億首川での調査風景から

3. 協働による生物分布の広域調査

- ✓ 生物多様性とくしま会議で取り組まれているスマホを利用した調査
- ✓ なぜ協働での生きもの分布調査が必要か
- ✓ システム
- ✓ 調査のしくみ

4. 守り、管理するための詳細調査

- ✓ 国指定天然記念物「船窪のオンツツジ群落」の保護をめぐる溝—行政 vs 市民
- ✓ なぜ調査が必要か、何を明らかにするか
- ✓ 調査設計
 - 調査区の設定
 - 群落の構造を調べ、視覚化する
 - 光環境の季節変化を調べる
 - 光環境の季節変化と低木層・草本層の植被率変化との関係
 - 希少種(RDB種)の分布を調べて地図化する
 - 希少種の分布と群落の構造との関係を考える
 - オンツツジ群落の現状を評価する
 - イノシシによる被害状況を明らかにする
- ✓ 報告書にまとめて事業提案する

5. 「宝の森」での挑戦

時間が残れば。

6. 植栽計画論—徳島県「千年の森づくり」のための調査の実際